

しのめ

発行 ● 鳥取県立鳥取東高等学校同窓会 東雲会

鳥取県鳥取市立川町5-210 〒680-0061

TEL 0857-22-8495

FAX 0857-22-8497

Eメール torie-h@mailk.torikyo.ed.jp

出版 ● 株式会社 サラト

兵庫県姫路市北条宮の町172 〒670-0948

TEL 079-284-1380

FAX 079-224-7746

題字 柴山抱海氏（特別会員）



第5回全国高校生書道パフォーマンス甲子園 優勝（愛媛県四国中央市・川之江体育館）平成24.7.29
中央の文字は「飛翔」

「同窓会とは」



鳥取東高等学校同窓会東雲会

会長 八村 輝夫（山7）

同窓会入会式の時には何時も「いつたい同窓会とは何だろう」と考えます。同じ学校で学び遊んだ仲間の親睦会だといってしまえばそれだけのことですが、その会が学校始まって以来ずっと先輩後輩の関係を維持したままで続いていくのは、単に親睦会だけのことではないと思われるのです。会社にもOB会がありますが、OB会と同窓会では出席した時の雰囲気の違いが感じます。同窓会は直ぐ気楽で打ち解けた雰囲気になるのに、OB会は違うと感じます。会社には先輩後輩の関係と共に課長や係長といった肩書きの違いもあるのでしょうし、あるいは動いたセクシヨンにより仲間意識の違いが出てくるのだるうとも思います。同窓会が多感で夢多き時代の仲間というところが大きくその性格作りに影響しているのでしょう。卒業と同時に始ど入会の意識も無く入会してしまつて続いていく同窓会とは一体なんでしょうか。

が進学します。学年の一体感が薄れるのもしかたがありません。このことが卒業生の中に同窓会意識が薄れてきていることと関係があると考えられます。学校に対し、仲間に対して考え方の違いがあり、意識が真に多様化していることは間違いありません。同窓会の存在価値が小さくなるのも仕方無いといえます。しかし、創立以来九十余年、進取の精神で自由闊達を旨とした鳥取東高の教育を受けた仲間として、東高教育を誇りに思い、高校生活を楽しんだ思いは一緒にです。母校が学業、部活、社会貢献などで目覚ましい成績を上げることに応援したいという気持を強め、同窓会の一体感を高める一つの要因だと思ひますが、一体感を醸成し、もっと親密感を持つてもらえる同窓会の意義を高めます。色々工夫をして施策を実行していきたいと考えています。

今年同窓会の歴史を特集しました。皆さんも読んで頂いて何かいい考えがあったら是非で教示下さい。

鳥取東高のかたち



校長
藤原 辰広
(山25)

昨年六月二十三日に行われた創立九十周年記念式典で、以下のような話をした。

初代校長である林重浩先生は、教職員に対して次のような教育方針を示しておられます。

第一に、善を好み社会奉仕をなすような生徒を育てたいが、まだ未熟な彼らに、今は人間としてどう生きるべきかという信念を養うよう努めてほしい。

第二に、勉強は自学自習を第一歩として、依頼心を捨てて独自に学習しなければならぬことをたたき込んでほしい。授業はデニスのレシーブではなく、サーブでなければならぬ、と述べ、「規律ある自由に生きよ」と結んでおられます。規律ある自由とは、上から一方的に押さえるのではなく、教員と生徒が相互の尊重と信頼に基づいた自由で公正な関係の上に立った教育であります。

時代が変わり、教育に関する制度や価値観も変わってきたが、林先生が示された教育方針は不易であると思う。一人ひとりの生徒が長い一生を送る上で、どう社会と関わり、どう社会に貢献していくかという信念を育て、その信念を貫くためには生徒自らが主体的に学ばなければならないということ、規律ある自由を大切にしながら教育する学校でありたい。これが本来の鳥取東高が目指すべき教育のかたちであると考えている。

今年三月の春休みを利用して、生徒会を中心とする有志三十九名が、東日本大震災の被災地である岩手県陸前高田市まで行き、復興を願う桜の苗木を植樹したり、仮設住宅を訪ね被災者の方々と話をしたりした。今後も生徒の主体的な活動を支援していきたい。

混沌とした先の見えない現在ではあるが、鳥取東高で学ぶ生徒たちが胸に熱い火種を持ち続け、郷土である鳥取県や日本のために生き抜く人となるよう、教育活動に邁進したい。



90周年創立記念式典 平成24年6月23日

東京支部

創立九十周年を祝して

東京東雲会会長
鈴木 誠 (山5)



平成24年度の東京東雲会の総会は、母校創立九十周年を記念した特別企画で行い、一〇〇名を超える参加者のもとで盛大に行われました。

まず、特別企画として鳥取市出身の衆議院議員石破茂氏をお招きして、日本の将来についてというテーマで講演をお願いしました。講師のご紹介は八村義郎副会長(山4)にお願いしました。講演の内容は我が国のかかえる昨今のさまざまな問題点をとりあげ、軽妙な口調でやさしく解説され、出席者一同大いに啓発され、また考えさせられるひとときでした。

次に、平成24年度の総会に移り、奥田真三副会長(山23)の司会により校歌の斉唱、会長の挨拶のあとご来賓としてご出席いただいた東京東雲会本部副会長前田八壽彦氏、東高校長藤原辰広先生、鳥取県東京本部大場尚志氏、鳥城会会長代理武田太老氏のご紹介があり、ご挨拶をいただきました。これを拝聴しておりますと、最近の母校生徒の活躍振りやなつかしい故郷鳥取の美しい情景が頭をよぎり、心温まる思いでした。このあと岸本部男幹事長(山5)の会務報告があり、藤田寿彦副会長(山7)のしめの挨拶で第一部を終わりました。

第二部は九十周年の特別懇親会とし、中島睦夫さん(山5)と細谷和夫さん(山22)の司会で先ず柏葉(19回)唯一人の出席者の上山信一さんの乾杯の発声で始まり、司会者中島さんの運営する睦エンタープライズ企画の演舞「祝賀剣舞」が披露され、社中の皆さんの舞台一ぱいの演技によいしれ、大きな拍手がまき起こりました。

ご来賓から差入れのあつたとうふ竹輪、鳥取砂丘のスイカなどを賞味しながらの懇談が続き、このあと恒例の福引大会へと移りました。当る、当る、豪華品が次々と出て、わいわい、がやがや、本当に楽しいひとときでした。

最後に参加者全員で「故郷」を合唱し、中嶋貴輔副会長(山15)のしめの挨拶のあと一本締めを行って終了となりました。そして用意された大地鶏のカーリーをお土産に、次回の再会を誓って散会しました。

東京東雲会では毎年7月の第一土曜日の午後4時30分から東京・霞ヶ関の法曹会館で総会を開いていますが、この外5月に総会準備会、12月に忘年会を行っています。事務局は千代田区内幸町2-2-1日本プレスセンタービル3階鈴木誠法律事務所内、電話03-3503-1727番です。

東海支部

平成24年度
東雲会東海支部活動報告

東海東雲会会長
中川 澄 (山17)

H24.01.06(金)

支部会報「しのめ」(第7号)原稿依頼発送

H24.04.11(水)

支部会報「しのめ」(第7号)編集打ち合わせ(映画館にて)

H24.06.23(土)

創立90周年記念式典に参列

H24.09.12(水)

支部会報「しのめ」(第7号)及び支部総会案内の発送

H24.10.14(日)

東雲会東海支部総会・懇親会、並びに講演会

東雲会副会長 谷口肇氏を鳥取から来賓としてお迎えして開催いたしました。

講演は、東高創立90周年を記念して東雲会副会長の谷口肇氏に『規律ある自由』の原点、初代校

長 林重浩先生と校祖 徳田平市氏「二中の創立と二人の出会い」の演題で講演して頂きました。お二人の自由な学園を作ろうとする情熱を熱く語って頂き、感銘を受けました。



平成24年度後半はアベノミクスという妖怪に多くの方が魅了されて泡踊りを始めています。金と国債は目減りすること間違い無しであり、浮かっている場合ではないと肝に銘じています。給料を上げるように要請した点は評価しますが、狂気の渦に巻き込まれるのは止めておきたいと、知人には忠告しています。

京阪神支部

平成24年度総会を開催

田村真二 (山29)



京阪神支部では、毎年11月の第3土曜日に総会と懇親会を開催しています。

平成24年度は、鳥取東高東雲会副会長の清水様、谷口様、鳥取東高の藤原校長先生、鳥取県関西本部長の米田様をご来賓としてお迎えし、11月17日に開催しました。参加者は90名で、山脈2回から38回までの幅広い年代の参加がありました。前年の100名には及びませんでしたが会長さんや同期の皆さんの支えもあり当番幹事として何とか役目を果たせたかなと思っています。

総会当日を迎えるまでは、案内状の送付や出席名簿の整理、当日資料の作成など準備するだけで手一杯でした。

が、終わってみると同窓や故郷を改めて思い直す良い機会になったと感じています。やはり、50歳までは子育てや仕事中心で同窓会に出てみようとは思っていませんでした。が、子育ても終わり、仕事も定年まであと数年となった今、高校時代の話は懐かしいばかりです。

今回を機に、高校時代は面識もなかった同窓とも鳥取を離れた関西でお会いでき、また、東高の大先輩もこの京阪神で多数活躍されていることを知り、故郷の繋がりを誇らしく思った次第です。

ところで、今回の幹事を引き受けるまでは同窓会というものに参加したことがありませんでした。特に知り合いもない場に参加するのも気が引けるものです。京阪神支部でも現在の100名程度の参加者をいかに増やしていくかが課題となっています。

しかし会員の皆さんが是非とも参加したくなるような企画や経費面を考えると中々難しいものです。今回、幹事を担当させていただいて気づいたことは、参加者の傾向として特定の同窓に固まっていることです。その意味では、支部総会にクラス会感覚で参加できる仕組みや仕掛けがより大切ではないかと思えます。支部総会の日に合わせて同期会を開催してもらうなどすれば参加者も増えてくるのではないのでしょうか。

ともあれ、幹事の引き継ぎも終えた今、支部活動が継続発展することを願っています。



24年度総会の当番幹事(山29)と次期幹事(山30)の集合写真

平成二十四年度 会務報告

★今回は、創立九〇周年記念のため五月に同窓会報「しのめ第八号」を発刊し、同窓会名簿に登録されている同窓生二万余名の方にお送りしました。また、在校生・本校教職員、今年開催された各期の同窓会に参加された方(同窓会名簿に住所等を登録されていない卒業生のため)にお配りしました。

★六月二十三日(土)、創立九〇周年記念式典が盛大に開催されました。式典には、県教育委員会、県議会・市議会議員、東・中・西部の高校関係者、東部の中学校関係者、学校創立関係者、同窓会・PTA役員関係者等、多くの方のご臨席をいただきました。

記念講演は、「ソフトバンク白戸家シリーズ」CMディレクターの浜崎慎治氏(山46)、記念演奏は、本校吹奏楽部とトロンボーンの中洋美氏(山56)の共演、記念演技は、本校書道部による書道パフォーマンスを披露していただきました。

また、同窓会館(しのめ館)とコモンホールでは、卒業生の方からご寄贈いただいた書道や絵画、一中・東高の歴史パネル、鳥東高通信のイラストをご寄稿いただいている山崎勝彦氏(山12)の作品、日本海新聞に連載中の「吉川経家」のまんがが作者岩田廉太郎氏(山21)の原画を記念日をはさんで二週間にわたって展示されました。

★七月七日(土) 東京東雲会が法曹会館で開催され、前田八壽彦同窓会副会長、藤原辰広校長に参加いただきました。

★八月四日(土) 本部同窓会総会が開催されました。総会では、京阪神東雲会当番幹事の田村真一様(山29)をご来賓にお招きしました。

アトラクションとして、創立九〇周年記念式典・記念行事のDVDを放映しました。

★今年は、二年ごとに行われる役員改選がありました。永年にわたって同窓会活動にご尽力いただきました副会長の上田 務氏(山18)がご勇退され、新たに安住庸雄氏(山24・本校野球部後援会長)が副会長にご就任いただきました。

また、同窓会事務局開設とともに事務局専任として十年間の永きにわたって同窓会活動の要として多大のご尽力ご貢献をいただきました横山清恵氏(山12)もご勇退され新たに村上千春氏(山39)が事務局専任にご就任していただきました。

★十月十四日(日) 東海東雲会総会が「名古屋クラウンホテル」で開催され、谷口 肇同窓会副会長(山8)に参加いただき、「規律ある自由」の初代校長林 重浩先生と校祖徳田平市氏への演題で講演していただきました。



総会懇親会(白兎会館)平成24.8.4

★十一月十七日(土) 京阪神東雲会総会に清水昭允同窓会副会長、藤原辰広校長に参加していただきました。

★改選された役員は次の方々で、任期は平成二十四年八月から平成二十六年八月までです。

会長 八村 輝夫(山7) 留任
副会長 三上 晃(山19) 留任

安住 庸雄(山24) 新任
倉恒 貞夫(山3) 留任

清水 昭允(山6) 留任
谷口 肇(山8) 留任

川口東洋輔(山12) 留任
前田八壽彦(山14) 留任

四宮 昭彦(山15) 留任
上杉 榮一(山17) 留任

井上江美子(山22) 留任
福美 秀敏(山24) 留任

井上 弘子(山28) 留任
山上 哲夫(山13) 留任

吉多 正乃(山13) 留任
名譽顧問 常田 享詳(山13) 留任

顧問(校長) 藤原 辰広(山25) 新任
事務局長 森本 政司(山11) 留任

事務局次長 堀部 宏子(山24) 新任
校内事務局長 竹島 一郎(山31) 新任

事務局専任 村上 千春(山39) 新任
副会長 上田 務(山18) 留任

事務局専任 横山 清恵(山12) 留任

同窓会名簿第11号を発刊します

同窓会名簿規約第23条(原則として6年毎に発刊する)により、第11号を発刊します。(前回は、平成20年6月)

☆平成25年9月下旬頃、会員の皆さまに掲載内容確認の往復はがきが届きます。(返信先は、鳥取東高宛です)

☆平成26年6月に発刊されます。

☆価格は、前回と同様の3,800円です。

☆予約販売制です。予約されないと購入できません。

☆サイズは、A4判になります。

同窓会報「しのめ」協力金納入の現況

同窓会員の皆様には、多大なご理解とご支援をいただきまして厚くお礼申し上げます。

8号の協力金納入は次のとおりです。(平成25年2月現在)

★会員宛発送数 20,403冊
★協力金入金件数 1,995件
★協力金入金総額 3,197,000円 ④
★入金手数料 221,570円 ⑤
★④-⑤= 2,975,430円
★設定額(印刷・郵送費等) 3,134,610円
★超過還元金(設定額の超過金額×80%)=0円

★会報協力金(会報の原稿・割付等への協力金で、一般会計に繰入) 300,000円

★今後とも協力金納入にご支援いただきますようお願いいたします。

★なお、振込用紙をコンビニでも使えるものにしてほしいとのご要望がありますが、その場合、振込用紙に金額を印字しなければなりません。例えば、2千円以上を振込みされたい方はできません。そのため郵便局用になっていますのでご理解ください。

一・二中時代の 同窓会

鳥取二中19回生・ 卒業68周年クラス会

鳥取東高同窓会副会長
19回生クラス会代表幹事
医学博士 三上 晃

我々柏葉19回生は今年85歳、昭和16年4月、158名入学、現在55名となっている。県内5校の中学生850名、旧町村の小学校で1名、2名の合格者、皆秀才である。

入学の年12月、日米開戦、2年、3年で陸軍幼年学校、特幹海軍予科練、官立無線等に31名入校。戦時特令として4年2学期から生徒動員と称し飛行機の修理工として米子空港、舞鶴軍港で働き、昭和20年3月、4年生で終了、5年生と一緒に卒業した私など15名は海軍兵学校、經理学校、陸士などに合格、終戦まで入

50名が進学、100名が中学卒で就職、本人の努力によって県の課長・部長に昇進した。

母校教師を務めた早田 悟君は同期で、我が家に下宿、担任の数学教師前田忠雄先生の御指名で私が数学を教えた親しい友であったが、若くして早逝、誠に残念である。更に各地旧制高校の寮歌祭に幣衣破帽、羽衣袴で微文を読む京大卒の学友が、我がクラス会でも自作の微文を朗々と歌い上げ、感激の内に盃を交わし開会するのである。

「静かに眼閉すれば往時鬚髯として追憶歌まず。溢れ来る回顧の数々を如何にせん。互みに交せし友情に目頭熱く潤むを如何にせん。久闊を叙して共に盃を舉げん」と。初代校長林 重浩先生の遺訓「学業は基より友人を作れ」この遺訓を大切に今年もクラス会を開催するのである。

東雲会の誕生

倉恒 貞夫

昭和24年（1949）終戦後の教育制度の改変により新制高校が発足した。学区制、男女共学、総合制の高校である。

旧制中学校の、一中、二中、県立女学校、市立女学校、商業、工業、農業などの学校が、東高、西高、八頭高などとして誕生した。

総合制東高は、普通科、工業科、農業科に分かれて構成されていた。（普通科が東高、工業科は鳥取工業高校、農業科は鳥取農業高校へと変わって行くのだが。）

普通科生徒数は1年318名、2

年210名、3年92名、これらの生徒は一高より111名、二高より195名、三高より145名、市高より131名、新制中学より55名、合計620名であった。又、県外からの通学者も多く、浜坂、西浜地区から72名もあった。

昭和25年の高校入試は学区制に従って、受験生は、若桜街道を境に、東は東高、西は西高への受験で、東中、南中は東高、西中、北中は西高へ受験させられた。

（もはや鳥取一中でもなければ、鳥取二中でもない。県立高女でも市立高女でもない。全く新しい県立高等学校の建設である。近代的なセンスをもつ東高独自の学風と伝統の建設だ）

二代目校長の西村矩道先生の思い出の一節です。このようなムードの中で、昭和29年東高卒業生の同窓会総会で、正式ではないが、二中同窓会柏葉会との合併の話が出されたが反対が強く、全然問題にされなかつ

た。30年の総会も同様であった様だが、31年の総会では「条件はない、なるべく合併してくれ」という問題が出されたが、反対の気風が強く、丁度欠席していた私が合併反対派の会長になれということで会長に選出された。

「山脈会側にも統合しなければならぬ」と云う気運も皆無であった訳ではないが、すっきりと統合に踏み切れなかった主な点は①相当な年令差のある両者が統合して、果して立派に運営出来て、会員に満足してもらえるかどうか。②特に女子会員は柏葉会に対して何等の魅力も関心もない。③何がしかの基金があつて、持参金つきで統合する気にならない。④役員構成について問題がある、等々であつたらしい。（柏葉会長、前田治吉先生の合流の経緯より）

32年1月に同窓会幹事総会を開いた。①31年総会での合併についての内容の再確認、②柏葉会との交渉委員選出③合併についての構想（名称、

財産、役員構成、総会、会計等）であつた。この会をうけて2月に第1回目の合併問題を話し合う会が正式に持たれた。

その席で森岡柏葉副会長は、学制改革で途中に線がひかれた。後輩がない。一つの校舎から出たものが一本に手をとりあつてゆこう。統合の条件は別に考えていない。いろいろ話しあいが行われたが、三浦先生より合併の提案がなされ、完全一本化。名称は適当に。東高の同窓会である。会費は一本化。当分は部会をもつて。会費は一本の同窓会に納める。などであつた。

この後、何度も何度も話しあいが行われ、遂に33年の山脈総会で合併することを決定、10月19日臨時総会を柏葉・山脈両会で行つて、対等合併、同窓会東雲会として発足することとなった。会長前田治吉、副会長中川時太郎、倉恒貞夫で、ここに一本化した同窓会が前進することになった。

鳥取東高等学校同窓会東雲会 定期総会・懇親会ご案内

日時 平成25年8月3日（土）午後4時
会場 対翠閣（しいたけ会館）
鳥取市富安一丁目84
TEL 24-8471
議題 ①会務報告 ②平成24年度決算
③平成25年度予算
懇親会費 4,000円
*会場・時間が変更になりました。

東京東雲会・夕べご案内

日時 平成25年7月6日（土）16時30分
会場 法曹会館 千代田区霞が関1-1-1
TEL 03-3581-2146
会費 一般 5,000円 学生 1,000円

東海支部東雲会総会・ご案内

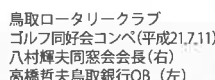
日時 平成25年10月12日（土）
12時～14時30分
会場 名古屋クラウンホテル
地下鉄「伏見駅」徒歩5分
TEL 052-211-6633
会費 男7,000円 女5,000円
夫婦同伴10,000円
初めての方3,000円 学生2,000円

京阪神東雲会総会・ご案内

日時 平成25年11月16日（土）
12時30分～15時30分
会場 「神仙閣」
大阪駅前 第一ビル12階
TEL 06-6341-4071
会費 7,000円（別途・年会費1,000円）

ダブルペリア方式とする

FAX (202) 492-1849

[illegible]

「酒なくて、なんぞこの世の花見かな」とか申しますが、私にとってゴルフ勝るものです。

しかもゴルフは老若男女を問わず、自分の力に応じて同じ土俵で楽しむことができます。これこそ、同窓会の経糸と横糸つなぐ最適な競技だと思います。

この大会が同窓会東雲会会員の絆を深める機会になるよう祈っております。多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております。

実行委員長 安住庸雄（柏二四期）

二中校旗

昭和十一年六月十日、只今
 を持つて本校の校旗を制定い
 たします。

布地は「塩瀬袷地」（厚手の羽二重で校旗、優勝旗等に使用）縦六十六センチ、横二

昭和十一年六月十日 茲ニ本校々旗ヲ制定ス

族ハ雄踞於地ニシテ中大に經 流采 總テ古代繁榮
 シ中央ニ總金割補テ以テ校章ヲ記シ 旗年ニ添添至ナ
 飯糰ノ銀槍ヲ
 本校ノ精神ヲ建立者初代校長林重浩先生ノ奇異
 セヲ校章ニナリ
 抑、我輩校章タル葉ニ古代ギリシヤ於ケル武神ヘルス
 ヲ意味シ、質實剛健ノ氣象ヲ表セリ、易經ニ曰クハ
 則巽乎中正 中正ノ從スル所悉ク義ナクザルハ
 莫ク武ハ克治ナリト親知ナリ前勸トナリ奉公大師
 トナル 校章校歌訓休ト共ニ誠ニ本校ノ理想相信
 念ノ表裏トナリ絶好ト言ヘリ校旗ノ下ニ職員生徒
 同心協力以テ益ニ中精神ノ顯現登揚ニ助メント
 ナラス

鳥取縣立鳥取第二中學校長 長本實治

メートル、「古代紫案め」(寛政)赤みを帯びた紫色。日本では昔、天皇のみが着用した高貴な色)とし、中央に金刺繍で校章を縫い取りする。旗竿は黒漆塗り千段巻の銀槍とする。因みにこれ以来、鳥取二中、鳥取東高では古代紫が、スクールカラーとして象徴的に使われてきた。

二中の校章の柏の葉は、古代ギリシャの戦いの神のマルスの象徴として質実剛健を表すものである。

「剛巽乎中正」は易経（孔子の五経のひとつで、易占の書である）に示されたもので「剛は中正に巽（くつ）いて志行われ、柔はみな剛に順う」の二節であり、中正（特定の考え立場に偏ることなく正しい）に事を行えば、すべて義（正しい行い）を守ること）であり、柏の葉は、校祖 林重造り、校長が示された生徒訓條「質実剛健」「克治」「親和」「勤勉」そして「奉公の誠」を表象的に示したものである。

校章、校歌、生徒訓條とともにこの校旗は本校の理想・信念を示す絶好の象徴であり、この校旗のもとに職員生徒は心を一つにして力を合わせ、二中精神を世に示し、勢威を盛んにするよう努めることを心から期待するものである。

鳥取第二中学校第二代校長

長本 實治

普通科高校として
独立校区制解除
昭和28

※柏18（旧制中5年）
 柏19（旧制中4年）— 戦時特令で18期と同時に卒業（昭和20年3月）
 ※山1（3年）と山2（2年）は合併ホームルーム

同窓会の主なあゆみ



同窓会館（現在のしのめ館）
（同窓会寄贈）昭和38.12.15 竣工



研修館（現在の耐震改築前の研修館）
（創立50周年記念事業／同窓会・PTA昭和47.10.31 竣工）



徳田会館（現在の研修館）
揮毫 谷口雲崖氏（谷口秋治先生）
礼法室など畳の部屋があり、各種会合等、多目的に活用
昭和27.12.20 竣工（同窓会、PTA 寄贈）
（創立30周年記念事業）



戦時下体制下の二中校庭でバレー大会
昭和19年 左前方は旧講堂・現在の自習室
（1階）図書室（2階）
（昭和30年代半ば頃までバレー大会は、写真のように屋外（校庭）で行われていた）



左上・第2グラウンド（山陰線の高架）
中央・第1グラウンドと校舎



創立20周年記念（校舎全景の記念はがき）
（昭和17年）



徳田平市翁顕彰碑 除幕
創立50周年記念事業（研修館の建築場所が昭和27年建築の徳田会館跡地に決まったため顕彰碑を建立することになった）昭和47.11.4



徳田平市翁像（胸像）
（徳田翁懿徳顕彰會 寄贈）昭和27.6 除幕



創立90周年記念式典 平成24.6.23

創立90周年記念 所蔵芸術作品展



鳥取二中学生の冬の制服



御真影と教育勅語が保管された奉安庫
（天皇・皇后の肖像写真）
昭和43.9 徳田平市氏寄贈

鳥取二中・鳥取東高のパネル写真展 平成24.6.18～7.1（しのめ館2階）



パネル写真展、入口

山崎勝彦氏（山12）
「東高通信」に掲載のイラストの展示 平成24.6.18～7.1



漫画家 岩田廉太郎氏（山21）
まんが原画（吉川経家など）
現在「日本海新聞」に連載中
（コモンホール・生徒昇降棟の2階）



林 重浩先生頌徳碑
旧県立図書館（現在のわらべ館）より
移転造立（平成元年12.27）



林 重浩先生頌徳碑、除幕
旧県立図書館（現在のわらべ館）の玄関前
昭和34.1.15

東京東雲会創設のころ

東京東雲会元幹事長

浜本 清海(柏7)

『創立八十周年記念誌』

より抜粋

昭和二十九年四月、私は麹町中に赴任。東京付近在住者で同窓会を作ったらの声があった。

三十年の春、浅草の森永ミルク社に柏葉と山脈が別々の部屋に集まった。柏葉は吉村徳太郎(2回)、加賀美忠男(3回)、乾 周市(5回)、林 泰彦(8回)、竹内信宜(10回)さんたち、山脈は、一期生の野津昭人、西村和義、足立 隆、二期生の岩田拓郎さんたち。そして一緒にやりましようということになった。

初代会長に柏葉一回の塚田 重、次いで五藤節夫、小谷新太郎、坪崎信興、五代目が田中弘人さんであった。六代目は橋尾 巖(柏4)さん。昭和四十一年、七代目が塔 健吉(柏4)さん、乾 周市、宮代武夫(柏5)さんが副会長、事務局の浜本と鈴木 誠(山5)さんが局長となり支えてくださった。粟粒のような小さい集いがこのような堂々たる大山に成長した蔭には沢山の人の心尽くしがあった。

二中の旧職員・徳岡英太郎校長、本部長前田治吉(柏1)、由宇喜三雄(柏1)、田村 威(柏3)、小谷達郎(柏5)氏のお世話になった。

特に定まった財産もなく、当日の会費だけで賄う会計、人数が狂った時の赤字を米山喜通(柏15)さんに助けてもらったこともあった。教頭になって益々忙しくなった私

を近くに事務所を持った鈴木 誠(山5)さんが、見るに見かねて援助してくださるようになった。

これが東雲会発展のためにどんなに役だったか、四十二年、田無一中の校長に出た私は、都心から遠くなったこともあり、鈴木さんの好意に益々甘えるようになってしまった。

平成四年七月吉日

故郷、母校を

感じられるこの機会を大切に

真嶋 修慈(山47)



私が東京東雲会に初めて参加したのは大学二年生の時でした。当時は年に数回の帰省を除き、鳥取及び東高を感じるような生活を送っていました。そのため高校の先生方と再会し、鳥取弁を話し、アゴ竹輪やスイカなどの特産品を食べ、さらに校歌を斉唱するといった機会は新鮮で、またとても懐かしく感じた事を覚えています。

東京東雲会は非常に活気のある会です。総会及び懇親会は毎年七月第二週の土曜日に開催され、百名を超える同窓生が集まります。総会では各界の来賓の方々にお越しいただき

東雲会の重みを感じる一方、懇親会ではがらりと雰囲気が変わります。お酒を交えながら同級生と近況を報告し合ったり、世代を越えて仕事や鳥取の話題で盛り上がりたりと会場には大きな笑い声が広がります。また毎年、会を盛り上げる企画が計画され、恩師の思い出の紹介やしゃんしゃん傘踊りの披露、豪華景品が当たるビンゴ大会などの催しが会場をさらに活気づけています。祖父と孫ほど世代が離れた同窓生が集まる会で、これほど活気のある会はまずありません。

このように活気溢れる東京東雲会ですが気になる点もひとつあります。それは二十代及び三十代の参加者が少ない点です。社会環境の変化なども原因かと思いますが、個人的にはこの世代での会の認知度が低いことが一番の原因ではないかと考えています。実は私も東京に出てきた際は会の存在を知らず、たまたま実家で会の存在を聞いたことが参加するきっかけでした。

そこで、東京東雲会に対する若い世代の認知度を上げ、参加者を増やすことが私の役割だと感じています。東京東雲会は上京後も母校や故郷を感じる事ができる貴重な機会です。今後もこの機会を提供し続けられるよう、在京の同窓生、そして今後上京する在学生に会の存在を伝えていきたいと考えています。本稿をお読み下さっている皆様のご協力も頂ければと思いますので、ご家族ご友人と会話される際には、東京でも活気ある東雲会が開催されていることを話題にしていたら幸いです。

東雲会名古屋支部

(通称・名古屋東雲会)

設立のころ

東海東雲会前会長

池本 宏(柏16)

『創立八十周年記念誌』

より抜粋

鳥取二中の徳岡英太郎校長が名古屋に立ち寄られた折りに、田中 芳(柏4)、岩崎 晋(柏6)氏を中心に在名卒業生が集まったのがはじまりで、「二中全会」と称した。その後、母校の「東雲会」(昭和三十三年十月誕生)の流れを受けて、林 武夫(柏1)先輩を支部長に「東雲会」名古屋支部ができあがった。

昭和四十一年二月、鳥取県友会が発足し、名古屋支部の旧交を温める場は、県友会へ移る。一方、母校より三浦太樹雄校長(昭和四十一年頃)、西本眞一校長(昭和四十四年頃)、前田忠雄校長、小谷達郎同窓会長(昭和四十七年頃)が相次いで来名され、その都度、会をもった。昭和四十八年のオイル・ショックのあと、鳥取県の名古屋事務所が閉鎖され、県友会の活動も鈍ると同時にお互いが顔を合わせる機会も薄れた。

昭和五十八年二月、当時の名鉄グランドホテル支配人田中洋一(山3)氏のご厚意により田中 芳(柏4)、岩崎 晋(柏6)、浜江 皓(柏7)、池本 宏(柏16)、平尾 勝(柏23)の各氏を中心となって再活動の準備にあたった。事務所の設置は、池本宏氏にお願いして、名古屋ゼブラビル朝日総業株式会社に置くことに

なった。

第二回同窓会以降は、事務局の池本宏氏、幹事の平尾 勝氏、田中洋一氏の相談によって開催されてきた。

最後に、東雲会名古屋支部は、今は亡き田中 芳氏と田中洋一氏の叔父・甥のコンビであるお二人なくしては誕生しなかった。さらに、林 武夫、浜江 皓、池本 宏、平尾 勝の諸氏の方々が本会の功労者である。

京阪神東雲会創設のころ

京阪神東雲会元会長

野田 幸生(山4)

昭和二十六年九月、松浦 昇氏(柏1)が京阪神在住の同窓生有志、谷沢 進(柏1)、井戸垣弘光(柏1)、近藤喜久治(柏2)、谷 千秋(柏3)、広岡秀治(柏3)、吉田 登(柏3)などの各氏と相談され、京阪神東雲会が生まれた。昭和三十五年、松浦昇支部長からの参加会員増加の要請を受け、上田二郎氏(柏11)、宇野田久子氏(山8)等の尽力により、毎年五十〜六十名程度の参加者を見るにいたった。(平成十年十月一日、東雲会京阪神支部会報「京阪神東雲会」創刊号)

その後、野田幸生(山4)前会長の提案により当番幹事制(当番幹事を毎年卒業年次順に順送りする)を導入した結果、参加者は倍増、毎年、百数十名が出席し盛会を重ねている。総会は、毎年、十一月第三土曜日に開催され、総会案内と一緒に会員に送られる会報「京阪神東雲」の編集は岡田俊一氏(山12)が担当。

縦糸としての当番幹事制度



過日、京阪神東雲会の理事會を鳥取県関西本部の交流

京阪神東雲会

岡田 俊一 (山12)

室で開催した。

平成二十四年度の総会・懇親会に携わり任務を終えた安堵感が見られる山脈二十九回の当番幹事と、次年度の当番幹事となる山脈三十回の方々の緊張した顔が並んでいた。

年度末には、鳥取県関西本部の呼びかけで『関西地区同窓会情報交換会』が開催され、県内高校の関西支部の責任者が集まる。共通の悩みは若年層の不参加と運営費の捻出である。

同窓会を担っている方々は高齢化傾向にあり、少子化が進み、母校への思い入れが年々希薄になり、個人情報保護を公にしたくないという風潮の中で、同窓会の存在意義も揺らいでいる。

友人やクラス会にはない学年を越えた同窓会の魅力が何なんかが問われている。

当会は、五十二歳前後の同窓生(平成二十五年度は三十回生)が総会・懇親会の企画・運営当日の世話の一切を行う。
この五十二歳というのは絶妙

の年代で、社会的には仕事も充実し子育ても一段落しており、故郷を離れ、走り続けた今までを振り返り高校時代が懐かしくなる時期でもある。

私が『当番幹事』をまかされたのは、阪神淡路大震災の年で、しかも七月だった。

当初に出た話は延期するかどうかだったと思う。

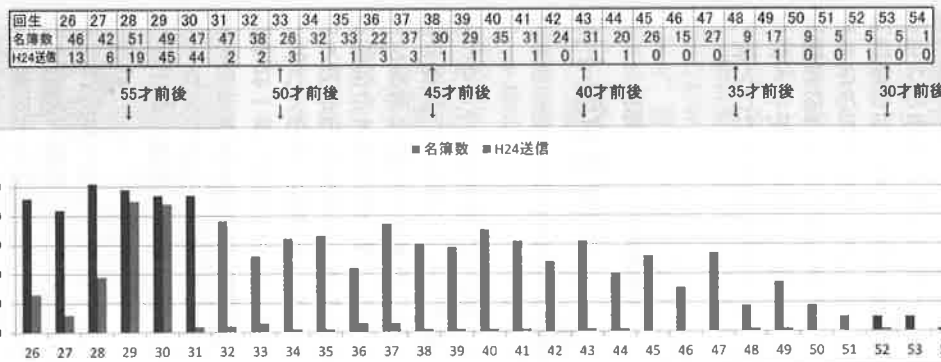
しかし、このような時期だからこそやろうと決め、兵庫・大阪に居た友人と連絡をとりあった。高校時代には同じクラスになったこともなく、こういう機会がなければ恐らく一生出会うこともない同期生たちであった。

今回も事務引き継ぎの時、平成二十四年度の運営に関わった二十九回生は、「最初は、何で私たちがしないといけないのかと思うたけど、一年経ってみると同期生と集まるようになったし良い経験として残りますよ」と引継で話していた。

この当番幹事制度は、当会の縦糸の機能を果たしている。

同窓会に参加できるということは、心と生活にゆとりがあり、豊かな高校時代を過ごした証ともいえる。

2012年度
山脈26回以後の会員の分析



□2012年度は山脈29回が当番幹事。参加者の若返りを図るために総会案内を29・30回全員に出した。
□表とグラフから読み取れることは、山脈39回(年齢的には40歳前後)以後は返信が激減。また、京阪神在住の同窓生が減少傾向。

これからの同窓会について



福美 秀敏 (山24)

鳥取県立鳥取東高等学校同窓会東雲会が発足し、今年で55年目を迎えます。
この半世紀を超える歴史ある東雲会は、本部と東京、京阪神、東海に支部を置き、親睦会の開催や会報発行といった活動を行っています。さらに本部では、会員名簿の定期発行、母校の周年行事に合わせた文化活動や、ときには雨天練習場などの施設建設や管理といった活発な事業も行われています。

こうした会運営は、偏に幹部役員と事務局の献身的な取り組みと東高教職員の方々のサポートで成り立っています。

同窓会は、クラス会や同期会の横の繋がりとは異なり、会員の縦の繋がりをコーディネートすることが大きな使命です。

また、「懐かしむ」「楽しむ」「繋がる」といった機能に視点を置きながら会員が参加してみたいと思う同窓会にしていこうと求められています。

卒業生の大半が県外へ出て行ってしまう現状を考えたとき、活動をさらに活性化させるためには、若い人たちの活動への参加が欠かせません。

具体的な対応策としては、会員間に止まらず、会員と在校生との間での「繋がり力」(信頼関係づくり)を強化する取り組みが必要ではないでしょうか。

まず、会員に活動を認知してもらうために、情報発信力を強化するWebサイトやFacebookなど情報ツールの活用を検討してみてもどうでしょうか。

また、若い会員ならではのユニークな企画を採用し、プロジェクトとして実施するのもよいのでは。例えば、総会に会員が参加したいと思う楽しいイベントの実施。さらには、東高祭への模擬店の出店や同窓生の立ち寄り場の設置が考えられます。加えて、創立記念日に開催されている講演会や会報の配布に止まらず、若い会員と在校生が直接に接触できる機会を増やし、活動をPRすることも重要です。

いずれにしても、若い人たちの活動への参画を促す仕組みと体制づくりが肝要であり、縁あって東雲会という絆で結ばれた同窓会を活性化させるには、会員一人ひとりの帰属意識の高揚と行動が基盤にならなければ実現できないことです。

我ら同期生

卒業40周年記念

同窓会の報告

福田昭人（山23）



昭和47年卒業生（山脈23回）は、昨年の8月12日、卒業40周年記念同窓会を行いましたので報告します。当日は、5人の恩師の先生方にも元氣な姿を見せていただき、133人の仲間が集まりました。還暦を目前にした私達ですが、この時ばかりは、40年前にタイムスリップし楽しい時間を過ごしました。毎回やってきたゲーム・アトラクションはやめて、ただただ飲んで語る2時間でしたが、短かったようで、みんな2次会へと流れて行きま

伝統の同窓会も、40周年記念が一つの区切りと考えておりましたが、5年後の開催を熱望する声が多く、幹事の皆さんと困惑しております。山脈23回では、ホームページを設置しておりますのでご覧下さい。
www.ncn-t.net/higashi23/contents.htm（山脈23回）

山脈28期同窓会報告

世話人 前川章三（山28）

平成24年8月14日、山脈28期の「卒業35周年記念同窓会」を開催しました。

卒業20周年記念の同窓会を開催して以来、5年おきに盛大に開催してきた山脈28期ですが、今回は諸事情により準備に取り掛かったのが6月中旬という、何とも凄まじい緊急スケジュールでの開催となりました。



東高山脈28期 卒業35周年同窓会 平成24年8月14日 於 白兔会館

2ヶ月後のお盆：何人くらい集まってくれるだろう…。そんな心配をしながらの開催でしたが、そこはそれ…。鳥東高PTA会長を3期連続で輩出し「東高を愛する気持ちはどこにも負けないでえ」と自負する山脈28期ですから…。各クラス幹事さんの手際よい段取りによって準備は整い、しかも急な開催にもかかわらず、6名の恩師を迎えて総勢90名超の参加を得ました。さすがです…さすがは我が母校…。

当日は、開会と同時に35年前にタイムスリップ！ハゲていようがメタボであろうが一切関係なし！気分は一気に鳥東生です！男女入り乱れての記念撮影や、同じテール内での近況報告、さらには昔の秘話の大暴露等、あつという間に2時間が過ぎてゆきました。次回は還暦となる年に…そう約束し、楽しかった会場をあとにしました。

三十周年同窓会

山脈三十三代表幹事

中江一雄（山33）

なんとなく気恥ずかしく、なんとなく不安げな顔が、嬉しそうな笑顔になっていく様子を、今回もたくさん目にしました。二十周年同窓会の時に味わった不思議なつながりの感覚に魅せられて、五年毎に開催しています。学年全体の同窓会で集まるのであれば、普段連絡の取り合えていない懐かしい顔に出会える嬉しさを少しでも多



く感じてもらえたらなあと思いつつ過ごしました。

上原康嗣先生、倉恒貞夫先生、白岩武士先生、田中昭文先生にもご出席いただきました。あの頃のこととともに現在のご活動などについても楽しくお話しいただき、とてもありがたかったです。

開会前の記念写真は同窓生の井上写真館。同学年の仲間の撮影ということで、とっても和やかな雰囲気の中でパシャでした。閉会直前に届いた記念写真の出来上がりを照れくさくながめつつ、前に映し出した歌詞を見ながら、みなで校歌を歌いました。二〇一二年八月十二日（日）、ホテルニューオータニ鳥取「鳳凰の間」にての集いでした。

卒業二十周年記念同窓会

中尾智子（山43）

八月十三日、ホテルニューオータニ鳥取にて、山脈四三期生、卒業二十周年記念同窓会を開催いた

しました。ご多忙のところ、私たちのために、六名の先生方がお時間を割いてくださり、総勢一八名が一堂に会し、盛大に開催することができました。

多くの方が早くから来場し、受



鳥取県立鳥取東高等学校平成4年卒業（山脈43回）20周年記念同窓会 平成24年8月13日 於 ホテルニューオータニ鳥取



鳥取県立鳥取東高等学校平成4年卒業（山脈43回）20周年記念同窓会 平成24年8月13日 於 ホテルニューオータニ鳥取

進路状況

進路部長 竹島 一郎（山31）

なお、過去五年間の合格者の状況及び主な大学の合格者数は左の表のとおりです。

ります。

います。二十年という時を埋めるには、二時間半の時間では足りず、あつという間の時間でした。最後に校歌を斉唱し、次回の同窓会での再会を約束し、同窓会を閉会しました。

最後になりましたが、今回の同窓会を開催するにあたり、多くのの方に、準備や参加の声かけなどご尽力をいただきました。みなさん、本当にありがとうございました。

主な大学の合格者数

京都大学	2	鳥取大学	58	慶應義塾大学	1
北海道大学	1	島根大学	13	青山学院大学	3
九州大学	4	岡山大学	12	中央大学	2
神戸大学	2	広島大学	4	同志社大学	5
筑波大学	1	徳島大学	3	立命館大学	17
千葉大学	1	香川大学	8	龍谷大学	11
金沢大学	1	長崎大学	1	関西大学	9
静岡大学	1	神戸市外国語大学	3	近畿大学	24
大阪教育大学	3	鳥取環境大学	5	関西学院大学	11

前同窓会事務局専任 横山 清恵

の皆さんの激励、ご厚情に感謝しつつ、生徒たちと同じ気持ちを抱いて卒業したと思っています。

生した専任事務局員として採用していただき、途切れることなく生徒諸君と関わり続けたいと思っています。

ることのできた一〇年間は夢
中で過ごした宝物のような時
間でした。

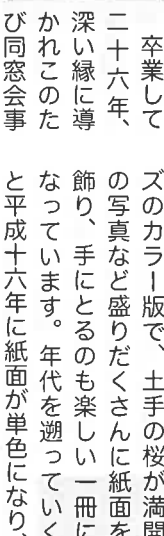
鳥取東高は今年九一周年目を迎
え、一〇〇周年に向けて新たな飛
躍の一步を踏み出しました。同窓

卒業式を迎えた生徒諸君が三年間を振り返る時、必ず鳥取東高で得た経験を心の糧に次なるステップへ旅立つ決意を述べますが、いま私も、拙

会事務局でも昨年八月四日の総会に於いて、若さ溢れる後任の村上千春さんをお迎えし、後顧の憂いなく業務を引き継ぐことができた。

い私を支え続け、充実した時間を与えていただいた同窓会事務局在職中に皆様からお寄せいただきました、ひとかたならぬ

同窓会事務局専任 村上 千春（山39）



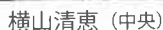
務局の業務を引き継ぐことになりました。少しずつ新しい環境にも慣れ、同窓会について勉強の日々を送っています。

私の時代にまでなると、見るからに年代ものの一冊が姿を現しました。紙面サイズも小さく、白黒印刷、でも味わい深い一冊を手にと

先日、資料整理のため、「鳥東高通信」を見ていた時のことです。今の紙面はA4サイ

た瞬間……正直言って少しショック！。自分では「まだ若い？」つもりだったのですが……。

ご支援とご協力に改めて感謝の意を捧げるとともに、私に与えていただいた温かい激励やご指導を後任の村上さんにもお与えいただくようお願いして、退任のご挨拶とさせていただきます。



確実に時が流れ、歴史になっていることを思いました。そして改めて、鳥取東高九〇年の歴史を背負った同窓会の仕事の重みを痛感しているところで

同窓会に係わる仕事は初めての出来事の連続で、本当に私で務まるのか不安な気持ちもありますが、大先輩の横山さんを見習いながら頑張っていきたいと思います。

同窓生の皆さんのご指導、鞭撻を心からお願ひし、新任のご挨拶とさせていただきます。

部活動報告

中沢 雅樹(山39)

生徒や職員、保護者や地域が東高に求める「文武両道」が各部活動の活躍により実現しています。

運動部の多くが中国大会や全国大会に出場しており、今やその活躍は定着化しつつあります。

男子バスケットボール部は平成二十年から今年度まで、県新人戦、中国県予選、県総体、選抜予選のすべての県内大会を制し、県内17連覇中と、その強さを発揮しています。

水泳部も同様に、県総体において平成二十一年以来4年連続女子総合優勝。男子は今年4連覇を逃



イオン新春高校生書道パフォーマンスイベント (H24.1.3)

見事優勝をしています。
北信越で開催されたインターハ

したものの、総合準優勝を果たしています。女子バレー部も常に県大会で優勝に絡む活躍をし、先の県新人戦では

イには、男子バスケットボール部、ボート部、卓球部が出場し、中でもボート部は男子ダブルスカルでベスト16に進出する頑張りを見せてくれました。

全国選抜大会にも、男子バスケットボール部、ボート部が出場しています。

文化部においては、書道部が全国書道パフォーマンス甲子園で念願の全国優勝を成し遂げました。高野山競書大会においても、団体奨励賞を受賞。個人でも毎日新聞社賞、高野山総長賞、審査委員長賞、南山賞、高野山書道協会賞を受賞

しました。また、国際高校生選抜書展においても中国地区優勝を果たすなど、中国、全国で大活躍です。

全国高総文祭には小倉百人一首(かるた部門)や弁論も出場を果たし、放送部はNHK杯全国放送コンテストに出場しています。

近年、県外大会で同窓会の皆様の声援を受けることが多くなりました。卒業後、年月がたっても変わらず母校をひしひしと感じます。その熱い想いを受け、生徒たちは更なる活躍を目指し



ウインターカップ 滋賀県光東高校との対戦 (H24.12.25)

て日々頑張っています。全国大会の日程・会場等を、本校HPにて随時お知らせしております。今後大会にぜひ足を運んでいただき、後輩たちを生の声で応援していただければ幸いです。

【全国大会】

部名	男女	大会名	種目・成績等
バスケットボール	男子	全国高等学校総合体育大会 (石川県開催)	
		全国高等学校選抜優勝大会 (広島県開催)	
卓球	女子	全国高等学校選抜大会 (長野県開催)	シングルス
ボート		全国高等学校総合体育大会 (新潟県開催)	男子ダブルススカル ベスト16
		全国高等学校選抜大会 (静岡県開催)	女子舵手付クオドルプル
小倉百人一首かるた部門		全国高等学校総合文化祭 (富山県開催)	
弁論		全国高等学校総合文化祭 (富山県開催)	
書道		全国高等学校大作書展 (東京都開催)	大作優秀賞
		高野山競書大会 (和歌山県開催)	毎日新聞社賞・高野山総長賞・審査委員長賞・南山賞・高野山書道協会賞
		全国高等書道パフォーマンス甲子園 (愛媛県開催)	優勝
		国際高校生選抜書展 (大阪府開催)	中国地区優勝、個人秀作賞
放送		全国書道展「放哉を書く」	鳥取県知事賞、新日本海新聞賞
		NHK杯全国放送コンテスト (東京都開催)	アナウンス部門

【県高校総体】

部名	男女	種目・成績等	備考
陸上	男女	優勝2種目	中国大会出場
	男女	入賞上記以外10種目	中国大会出場
バレーボール	男子	団体2位	
	女子	団体2位	
新体操	女子	団体2位	中国大会出場
	女子	団体3位	
テニス	女子	シングルスベスト8	中国大会出場
	女子	ダブルスベスト4	中国大会出場
ソフトテニス	男子	ダブルス	中国大会出場
	女子	ダブルス	中国大会出場
サッカー	女子	団体優勝	中国大会出場
水泳	男子	男子団体総合2位	
	女子	女子団体総合優勝	
	男女	優勝7種目	中国大会出場
	男女	入賞上記以外17種目	中国大会出場

【県高校総文祭】

部名	男女	種目・成績等	備考
邦楽部		日本音楽 優秀賞	近畿高総文祭出場

【各種大会】

部名	男女	大会名	種目・成績等	備考
バレー	男子	鳥取県高校新人戦	第3位	
	女子	鳥取県高校新人戦	優勝	中国大会出場
柔道	男子	中国高校選手権大会鳥取県予選	準優勝	中国大会出場
	女子	鳥取県高校新人戦	第5位	中国大会出場
卓球	男子	鳥取県高校新人戦	第4位	中国大会出場
	女子	春季高等学校卓球選手権大会	ベスト16	中国大会出場
駅伝	男子	鳥取県高校新人戦	第6位	中国大会出場
	女子	鳥取県高校新人戦	第3位	中国大会出場
テニス	男子	鳥取県高校新人戦	個人2名	中国大会出場
	女子	鳥取県高校新人戦	個人1名	中国大会出場
ボート	男子	鳥取県高校新人戦	舵手付クオドル優勝	中国大会出場
	女子	鳥取県高校新人戦	舵手付クオドル第2位	中国大会出場
サッカー	女子	鳥取県高校新人戦	優勝	
弓道	女子	鳥取県高校新人戦	団体第3位	中国大会出場
			個人5位	中国大会出場

編集後記

山崎 雅晴(山32)

鳥取東高の同窓会組

織・東雲会は学校の歴史とともに柏葉会と山脈会が誕生し、それぞれが合併して、現在の東雲会となった。また、東京・東海・京阪神と各支部も置かれ、まさにタテの延びとヨコの広がり、歴史の発展と深まりを感じる。卒業記念同窓会も卒業20周年、50周年記念など人生の節目にそれぞれ開かれるなど同窓生意識は高く、つながりは深い。また、これらの同窓会に参加できなくとも、この会報「しものめ」で母校の様子を知り、懐かしみ、楽しめたい方も多いようである。編集担当として、この仕事に誇りを感じるとともに、卒業生の方たちの思いを大切にできるような会報づくりに努めなければならないことを事務局としていつまでも引き継いでいけるようにしていきたい。